

WEEKLY REPORT

【例会場・事務局】

〒197-0832 東京都あきる野市上代継600
東京サマーランド スポーツクラブハウス
TEL.042-550-0747 FAX.042-550-0059

Rotary
第2580地区



ロータリーの
マジック

東京秋川ロータリークラブ
2024-25年度 6号

2024年8月8日
第2384回例会

出席報告	会員	出席	欠席	免除	出席率
	43	30	12	1	71.43%

本日のテーマ

卓話

東京消防庁 秋川消防署長 宮澤 裕 様

次回以降のプログラム

8月22日(木) イニシエーションスピーチ 中村 文典 君

8月29日(木) 夜間例会 鮎の塩焼きを食べる会

9月 5日(木) 全員協議会

第2383回の出席率訂正 会員43名 出席26名 メークアップ5名 欠席10名 免除2名 訂正出席率 75.61%

会長方針

絆と喜び；仲間と笑顔で奉仕を

本日のお客様

- ・東京消防庁秋川消防署長 宮澤 裕 様
- ・東京消防庁秋川消防署 木川 俊成 様

幹事報告 佐藤 慶 幹事

- ・財団の寄付、認証の手引きが事務局に届いています。お役立てくださいとのことです。
- ・8月3日(土) 秋川消防署に消防少年団の野外活動の出発式に4名で参加してきました。お礼状をいただいております。
- ・前回の全員協議会のご意見の元、理事会で話し合い消防少年団には30万円の寄付をさせていただくことになりました。また金銭以外にも違った形でコミットさせていただく予定です。
- ・少年軟式野球大会へは今年度が39回目、次回の40回目を目途に検討すると申し伝えてあります。
- ・中学校女子バレーボール大会へは多くの中学が出場不可能になったという要因があり開催しない旨、お伝えに行く予定です。
- ・ミニサッカー大会は本年が30回の節目ということで本年度をもって終了する予定です。
- ・鮎の塩焼きを食べる会でバス運行費で8万円の支出が理事会にて決定しましたのでご報告申し上げます。

委員会報告

- ・親睦委員会
親睦旅行のアンケートを行っています、多くの参加者と希望に沿った親睦ができるようしたいと思います。ご協力お願いします。
- ・ロータリー財団委員会
ロータリーレートの報告、8月は1ドル154円です。7月は161円でした。
- ・橋本会員より
現在の3か月での出席率7割以上の方20名、うち100%の方が16名です。出席率を上げていきたいと考えております。出席率50%を切った方たちと食事会、お話の機会を設けていきたいと考えています。チャーターメンバーの一人として出席率を上げたい、楽しい例会を作っていきたいと登壇させていただきました、その際はぜひご出席をよろしく願います。
- ・会員増強委員会
鮎の塩焼きを食べる会にてロータリー主催の企画を知っていただくといい機会だと思います、ぜひ新規会員予定の方にお声がけをお願いします。

— SAA委員会 — ニコニコ 発表

合計金額 **25,000円**

- ・井上 文喜 君 宮澤署長、木川さん本日はようこそ、おいでくださいました。よろしく申し上げます。
- ・森田 正明 君 宮澤署長、本日はようこそ、おいで下さいました。卓話楽しみです。
- ・安保 謙一郎 君 本人誕生祝をいただいて。
- ・乙戸 康博 君 妻誕生祝をいただいて。
- ・榎本 義晴 君 皆出勤7年をいただいて。
- ・秦 英準 君 早退致します。
- ・進藤 晃 君 早退致します。

— 卓話 — 東京消防庁秋川消防署長 宮澤 裕 様

— 講師プロフィール —

東京消防庁秋川消防署長 宮澤 裕

昭和59年4月東京消防庁入庁

滝乃川消防署勤務、その後、石神井消防署特別救助隊長として勤務し多くの災害現場でご活躍されました。

東京消防庁の幹部として清瀬消防署警防課長、安達消防署警防課長。本庁では安全対策担当課長、また3年前の静岡県で起きた土砂災害の即応対処部隊の担当課長を歴任し、令和4年10月に秋川消防署長に着任されました。



「静岡県熱海市で発生した土砂災害における東京都大隊の活動について」

東京消防庁秋川消防署長の宮澤です。今日は本当にこのような素晴らしい場でお話をさせてもらうことを光栄に思っています。また、平素から消防署に対してこの支援ご協力をいただきありがとうございました。先ほどから出てますけど、少年団の方にも力を注いでいただきました。私も育成委員長として、松村会員からありましたようになんとか出れる限りに出ようというので活動させてもらってます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今日お話しする内容なんですけど、熱海であった土砂災害、それに初めてこの即応対処部隊っていう東京消防庁に一隊しかない部隊が派遣された、そんな内容をお話したいと思います。この即応対処部隊という部隊の特徴はですね、総括部隊長、私がトップ総括部隊長で、その下に4人部隊長っていうのがいるんですね。その部隊長さんたちの判断で、部隊を東京都内のどこにでも差し向けることができます。81ある消防署の部隊やハイパーレスキュー隊は、大手町の警報本部からの命令でしか出れないですけど、この即応対処部隊という部隊は隊長の判断でどこにでも出ていけるちょっと特徴がある部隊なんです。その部隊が初めて熱海に派遣されたということで、その話をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

特殊な車両特殊な資機材、そういったものを駆使して先遣隊としてまずベンチに入り、情報を収集して作戦を立てる。この要求者をどう助けようか、そういう作戦を立てて、後から来る救助部隊と連携して救出救助に当たるといふ部隊です。たった一隊しかありません。東京消防庁警報本部直轄隊で、自由に出勤することができます。

皆さんご存知のように、7月3日は東京都内でも大雨が降ったと思います。私は部隊員にこう指示してました。江東五区は危ないんで、すぐ出勤できるように準備しとけと。ところが10時半になったら、部隊員からラインで熱海の土砂災害の映像が私に届いて、総括部隊長危ない、熱海が危ないということですぐ出勤しました。やはり消防庁長官から都知事に対して出勤の要請があってすぐ出るぞということで、13時ごろからはじめまして17時には現地出発しました。これだけの部隊を連れて行ったんですね。これが全体の図ですけど、それで緊急援助隊となるとなぜ東京と大隊なのか？東京消防庁の隊だけじゃないのかって思うんですけど。



東京都大隊となるためには、稲城市の消防本部だけは東京都内でも一つの消防本部として運営してるじゃないですか。で合わさっていくんで、東京都の大隊で他の県は、例えば神奈川県ですと横浜市消防局や、平塚市消防局だとか相模原市消防局って複数の消防本部があります。それぞれが部隊を出して集まってくんで、神奈川県大隊で愛知県大隊とか長野県大隊ってそういう表現になってます。これが緊急援助隊の仕組みです。

要請を受けてから出ているで、東京消防庁としてはえっとこれだけ、熱海にはみんな出ましたよという状況でございます。活動概要になりますけど、出動隊は東京都大隊はこれだけいます。即応対応部隊を中心に、日本部の機動部隊、それと救急機動部隊やポンプ特殊車後方支援、稲城市消防本部という構成で出ております。出場ががかりますと、この時は東名高速道路の海老名サービスエリアに部隊を集結させます。19時指定だったと思います。で集結した時に隊長だけを集めて今後の予定ってということで話します。道順ルート現地の状況入っている限りの情報ここで伝えて、熱海に向かっていくという状況になっています。

当日、現地対策本部熱海市消防本部内に設置されているんですけど、ここに到着したのが22時ジャストです。33台の車が車列を作ってサイレン鳴らしていきってなると非常に時間がかかるんですね。熱海の消防本部に入って、これから東京消防庁が明日の朝以降、どういう活動をしていくのかっていう説明を受けます。次の日の朝6時から活動開始ですので、ここを5時に出なくちゃいけないってことで部隊を集めて、霧雨の降る中、訓示をしてですね。こういう時って何を話さかっていうのも安全管理のことだけですね。特に土砂災害は現地行ってからわかったんですけど、一歩先は一気に体が全部埋まっちゃうぐらいの土砂の深さなんです。だから殉職ってことを常に考えてなくちゃいけない。それが心配で心配で安全管理の徹底だけ話した記憶があります。これが活動をした展開した五カ所に分けました。土砂が流れた場所で2と4の場所が東京都大隊の活動地域ということで、2の場所を即応対象部隊が中心となって4の場所は、第二消防方面本部の救助機動部隊が中心になって活動した。それぞれ警察自衛隊、それと海保も海で潜って何人か見つけてます。はい、こんな状況です。これが全体です。現場での安全監視活動になります。これはですね、土砂災害遠隔監視装置と言いまして、土砂にレーザー光線を当てて土砂が動くとか警報が鳴るということで精度が高すぎてですね。しょっちゅう警報になっちゃうんですね。あと、ちょっとぼけっとしてるとレーザー見えないじゃないですか？前通っちゃうと、それで遮られちゃって警報鳴っちゃうんですね、ですけど、やっぱりこういうので我々の命守られてるんだなって非常に思いますね。建物とあと土砂の面に危なそうなとこに当てて、この時は国交省のテックフォースが上流側、土石流が発生したところに監視警戒隊をつけてくれてますので、そっちからの連絡もあって、何度も何度も避難をさせられました。現場に入ってるんですけど、何度も何度も避難をさせられて警報が鳴るんで避難をさせられたという状況です。まあ、その都度、本当に肝を冷やすというか、大変な状況でした。

こちらが全天候型のドローンとなります。土砂により進入が困難な場所が多くあったので、こちらのドローンを活用して上空から安全開始とか現状地図の作成もしました。元のあった地図と今の状況と照らし合わせた上で地図を作成していく。これも重要な任務です。やっぱりその地図に基づいて、ええ、すべての作戦を立てていくということになります。ドローンは非常に有効です。でどこの部署も警察も自衛隊もみんなドローン部隊持ってまして飛ばして情報収集しています。ちゃんと時間割こう決めててもやっぱり飛ばしたいんでしょうね。その時間を守らず飛ばすところもありました。

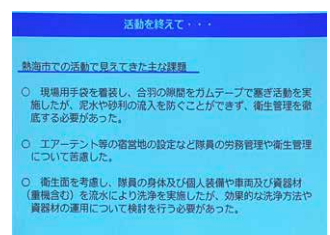
ニュースでたびたび流れておりました建物内、茶色い建物が酒屋さんだったんですけど、そこの中で活動しました。実は上流から流されてきた家がこの1階部分に入っていました。なぜかっていうといろんなその郵便物ですとか、出てきたものから名前を確認すると住宅地図から、その家がここの中に入ったんだなっていうことがわかりまして、ここを最重要最重点として検索行ったところ。ほとんどもう土砂が堆積してまして、天井との間がない状況で、いつ建物が動いてもおかしくないんで、非常に怖い思いしましたね。ベルトコンベアなんか活用して中の土砂をどんどん排除していたという状況です。本当にもう地道な作業です。手掘りですので、非常に地道な作業です。発災から72時間を超えすと生存確率一気に下がりますんで、この時点を持って重機の投入を判断します。で、都庁が持っている神器ホイールローダードラグショベルとで土砂を掻き出し始めました。これが72時間ですかってたった7月7日の午後からですね、現状投入ということで、この土砂の排出に非常に時間がかかるってことが分かったので、今年度土砂排出をできるポンプ車を導入して今、旧本部の機動部隊、八王子市の鍮水にある部隊に配置してあります。ここは東海道新幹線の高架があって、砂防ダムのような役割をして、ここに土砂溜りができました。ここにも重機が入る道がなくてすべて手掘りになりました。ここが一番土砂が堆積しておりました。このような状況です。土砂災害の現場では、資機材や人員を投入



するために高い走破性能を有する車両が活躍しました。先ほど、全地形活動車についてこれポラリスっていうアメリカのバギーなんですけど、これが非常に活躍しまして。クローラーに変えともうどこでも走れる。普通のタイヤでもほとんどのところを走っていけるので高速は90キロまで出して高速道路も走れるので資機材の搬送で活躍してくれました。それでこちらの車ですが、ウニモグですね。水深1.2mまで走行できますし、傾斜も45度まで登れるので、いろんな消防本部が入ってます。

宿営地での後方支援活動になります。やっぱり路地ですね。後方支援がすごく大事で、実はさっき5時から訓示やったって言ってましたよね。あの日後方支援隊はもっと早く着くはずだったんです。ところが、到着が夜中の3時半過ぎだったんで、朝食の準備がちょっと間に合わない状況が出てきて、宿営地に最初案内されたのが中学校の跡地だったんですね。跡地であれば校舎があるから雨風のげるからいいじゃないかと思ってたら、校舎がないとこだったんですね。ただのグラウンド、もうただぬかるんでる泥のグラウンドで、そこで一晩過ごすテントも張れない状況でしたから、車の中で各々過ごしたんですけど、やっぱり疲れが取れないですね。それで後方支援隊も遅れてましたんで、物資は届かない。だから夕食、そういったものも手配できなかったってということで、やっぱり後方支援活動が大事なんですね。でこのグラウンドじゃダメだってことで別のところの駐車場あてがってもらいましてここで膨張テント張りました。このテント普通は8人寝泊まりできるんですが、当時コロナまだありましたので、6人に制限をしまして泊まりました。20貼持って行って全て使用しました。電気式の送風機を使って中に空気を送り込むことで、5分程度でこの膨張テントは膨らみます。夏場だったんで隊員の休息を考えると冷風機っていう移動式の冷風扇もたくさん持って行って、1貼に一つずつセットして体を休ませたという状況です。あと、これがトイレカーなんですけど、トイレカーが非常に活躍しました。都庁しか持ってなくて、現地のトイレに限られてるんで非常に困っていたんですけど、トイレカーが来てくれてよかったというんな本部から聞かされました。トイレカーには、男性用の小便器が二つと個室が二つ、女性用の個室が一つ装備されておりまして現状で活躍しました。

活動を経て見えてきた主な課題なんですけど、やっぱり衛生面ですね、私どもがいった一次派遣隊はいなかったんですけど、二次派遣以降が帰ってきてから体に発疹が出たり、やっぱり泥の中にはいろんな細菌、ウイルスとかあるということで、衛生面特に宿営地に戻ってきて、そのまま汚い格好で宿営地に入ってしまうと、全てダーティゾーンになってしまうものですから、やっぱりそのデコンタミネーションっていうんですかね？そういうのが大事で、グリーンのところに入るまでにはしっかりと汚いものを落としてから装備を取って入るっていうことをしていけないといけないということでよくわかりました。それと帰ってきてすぐに私が報告したのは、熱海の街は生きてるんですね。ということはホテルとか旅館とかみんな生きてるわけですよ。ですから、宿営なんかわざわざすることなくて、街の復興を考えたら、ホテルを使ってあげた方が、お金が落ちるわけじゃないですか。すぐに言ったら総務省消防庁了解してくれまして、全部の派遣してる部隊が熱海にある後楽園ホテルですか？私どもは聚楽っていうホテルですか？そっちに泊めてもらいました。そんなこと言ったもんですから7月の10日からもう一回行ってこい。いや、いろいろして、それで結局って言いますか、東京都大隊でね、引き上げる準備をしっかりとやってきなさいと言われてまして。また私、7月の10日から単独12日までの3日間行ったということでは、そんなような活動でございました。帰ってきてから囲みの取材受けた時に、やっぱり言わせてもらったのは地元の方の情報が頼りなんですね。近くに住んでいる方、そして消防団の方、やっぱりよく知ってました。もう我々が行って作戦地図さっき作ったとか言ってましたけど、地図作っただけじゃ全くダメなんですね。住宅地図でお宅の表示があるかもしれません。全くダメです。やっぱり地元の方、特に消防団の方、よく知ってました。現地から避難所の直接、その本人の方に連絡を取っていただいて、安否の確認もしていただいたんで、今逃げ遅れてる方、まだ土砂の中にいる方の分母がわかりません、すぐ。そして、我々の活動範囲からさっき言ったように、あの酒屋さんの1階に上の方のお宅が突っ込んで。ここにいる可能性が高いという割り出しで、そこを重点的に検索することができました。ところが、この私どもが追ってた、要求除者の方は？最終最後28人目として見つかった方となってしまいました。はい、こんなような活動でございました。時間も来ましたんで、この辺で終わらせてもらいたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。



◆編集 週報委員会 担当 新井 悠央